

登別中学校 学校適正配置に関する地区別検討委員会
第5回教育環境部会 議事録

日時 令和4年7月20日（水）18時00分

会場 登別市婦人センター講堂（2F）

出席者 （委員）飯尾委員、関川委員、日野委員、坂井委員、福富委員、岸委員、
齊藤委員、畠山委員、
（事務局）堀井部長、中島参与、近間総括主幹、蓬田主査
（学校）寺岡校長、松田校長、古沢教頭、林教頭

○部会長 時間となりましたので、これより「登別中学校 学校適正配置に関する地区別検討委員会」の第5回教育環境部会を開催いたします。

前回は、第2回の縣先生、第3回の旧登別温泉中学校の同窓生のお話などを踏まえて、登別中学校のあり方、統合の是非に関して議論する予定でしたが、出席委員が少なかったため、本日あらためて議論することとなりました。本日は、会議次第のとおり、2回目、3回目の意見交換会の結果をあらためて確認して、前に進めていきたいと思っております。それでは、事務局の方より説明をお願いします。

○事務局 （事務局より資料に基づき説明）

○部会長 ありがとうございます。第2回及び第3回の意見交換会の結果に関し説明してもらいました。ここまででなにか、質問等ございませんか。

（なしの声あり）

○部会長 それでは、続きまして第4回における部会員のまとめですが、第2回、第3回と話をした中で、先生方のお話とか、温泉中学校が統合された当時の話を聞いて、

部会の皆さんがどのように考えているのか、どのように思ったのかというのが第4回でした。その意見について、事務局の方でまとめていただいているので、説明をお願いします。

○事務局 (事務局より資料に基づき説明)

○部会長 ありがとうございます。ここまででご質問等ございませんか。

(なしの声あり)

○部会長 それでは会議次第にしたがって進めます。これまで「子どもたちのために」、「子どもにとって学校とは」、「どういう教育環境がいいのか」という話をしてきたわけですが、今後の議論の参考に、もうひとつの部会であるまちづくり部会の議論の動向について、事務局から説明していただけますか。

○事務局 (事務局より資料に基づき説明)

○部会長 ありがとうございます。まちづくり部会における協議の動向について、説明がありました。質問等ございませんか。

(なしの声あり)

○部会長 ここまで資料の説明があったんですけども、第4回に出られなかった皆さんから、今の説明を踏まえて、今後の登別中学校の統廃合の必要性とか、今後の見通しについて、率直な感想、意見があれば、お聞かせ願います。

○委員 そうですね、いま、様々な方の話を聞かせていただいて、皆さんがおっしゃるとおり、いつかは統合しなければならないと思ってきましたし、子どもたちにとっては良いことなのかなと思っています。ただ、やはり地域のことを考えた時に

は、先日もわくわく広場がありました。が、中学校が無くなることによって、この地域の良さが薄れていってしまうのではないかとこの怖さはあるので、賛成と反対で葛藤している部分があります。

○部会長 ありがとうございます。

○委員 保護者として登別温泉小学校と中学校に関わり、いまは登別中学校の運営協議会委員をやらせていただいております。はじめに事務局から説明があったように、人数の少なさが問題であるわけですから、規模を確保するために、校区を見直すということだと思っています。統合という言葉を使いがちですが、それではともに校区を築いていくという夢が無いので、校区の見直しと言うべきだと思います。私の経験からお話ししますと、私の息子は登別中学校出身なのですが、受験の際に先生の後押しを受けられなかった苦い経験があります。また、ともに目標に向かう友達とも出会えなかった。ただ、唯一、中学校時代にバドミントンに出会って、成人した今でも続けている。そうした意味では、中学校時代に、子どもたちには様々な機会を与えるべきで、それには一定の規模が無ければできないと思いますので、やはり親として、大人としてそういったチャンスを広げてあげるといふことを考えると、校区の見直しは避けては通れないと思います。そういう意味では、大きな集団の中で、子どもたちをどうフォローしていくのかというのが大事なのかなと思っています。

○部会長 ありがとうございます。委員が言うように、小規模が良いとか悪いとかではなく、子どもたちにとってどんな環境が良いのかということをお話してきたと思います。部会として、どのような結論になるかは分かりませんが、子どもたちにとってのあるべき姿を見つけられればと思います。

○委員 委員の話にもあったとおり、小規模化のデメリットを統合によって回避することだと思っておりますが、縣先生の話でも、統合のメリット、良かったことは多くあるんですが、デメリットの部分が見えてきません。私自身、カルルス小

学校から温泉小学校に通うようになった中で、大きい集団の中で、少数の意見が反映されづらいという部分がありました。もちろん社会に出れば、多数決で物事を決する場面は多々あるのですが、そうした少数者へのフォローがなかなか難しいのではないかと思います。また、この地域で育ってきて、この地域で中学校に行くだろうと思っていた子どもたちが、幌別中学校に行きなさいと言われたときに、子どもたちのビジョンを大きく変えてしまうことになっていきますので、いまここで我々が議論していることは重い意味を持つものと思っています。そうした意味でも、今まで聞いてきた話がすべてではなく、例えば、幼稚園関係者に話を聞いて、未就学児童の保護者の方達がどのように考えているのかを聞くなど、違う立場の人達には別の意見があるということを踏まえて議論を進めていきたいと思っています。部会として結論を出さなければならないということも分かるのですが、さらに様々な角度から議論しなければならないと思います。私はまちづくりの部会にも参加していますが、人口増加は一朝一夕にはいかないということは理解しつつも、例えばこの地区の地域性を捉えて、虎杖浜地区、白老方面に校区を広げていく、そういったことを議論してもいいのではないのでしょうか。やはりまちづくりを進める上で、中学校は非常に重要なものだということは皆さんも理解されていると思いますので、統合に賛成、反対で二分するのではなく、皆さんが納得する形で議論し尽くすことが重要だと思います。やはり統合に賛成、反対だけで考えてしまうと、地域を二分し、この地域の良さが損なわれてしまう、この地域がこれまでやってきたことが損なわれてしまう、そんな危惧を持っています。まちづくり部会の成田部会長も様々な方面から話を聞いてくれていますので、そういう部分を集約しながら議論を進めていくべきだと思います。人数を多くすることですべてが解決するわけではないということは、私の実体験から申し上げたいと思います。

○部会長 ありがとうございます。

○委員 第3回の意見交換会に参加して、旧登別温泉中学校の同窓生から、統合することでデメリットは無かったということを知って安心した部分がありました。ただ、

登別中学校と幌別中学校の統合の場合、温泉中学校から登別中学校に来た人数よりも人数が確実に多くなります。そう考えると、温泉中学校が統合した時とは異なり、輪の中に入れられない子どもが出る可能性があるため、その部分のケアは重点的にしていただければと思います。私の子どもたちも、1学年1クラスという環境で中学校生活を送り、高校進学時に苦労したという話を聞いています。野球のクラブチームに入っていて、友達を作るのは上手い子だったのですが、入学後1週間から2週間は1人でお弁当を食べていたということです。必ずそういうケースは出てきてしまいますので、輪に入れられない子どもへのケアをしっかりとやっていただければ、統合してもいいのかなと考えています。自分の子どもたちのことを考えても、自分はこれくらいできているから、これ以上競争しなくていいと考える、ある意味競争心が感じられない傾向がありまして、競争心を育てるという意味で、統合しても良いのかなということは思っています。ただ、さきほども言ったように、新しい環境に馴染めない子どもたちの心のケアだったり、学校が変わるとか、経路が変わるだけで、行きたくないという子が増えるので、そういうケアだったりをしていただければ良いのかなと思っています。

○部会長 ありがとうございます。ここまでで、全体としてご質問とか意見とかあれば。

○委員 さきほど委員から、様々な立場の人達の意見を大事にという話がありましたが、周りの保護者から聞いている生の声があれば聞かせて欲しいと思います。

○委員 私の場合、保護者同士の付き合いの中でというよりは、子どもたちから聞いた話を中心になるのですが、やはりクラスの中心にいるような子どもたちは、部活ができるようになるからいいという反応が多いようですが、クラスの中であまり意見を発しない子どもたちは、不安に思っているケースが多いと聞いています。これは中学生も小学生も同様で、漠然とした不安を感じているようです。ここからは私の理解になりますが、これまで少人数の中で学校生活を送ってきて、いまの状況でも自分の立ち位置を見つけるのに精一杯な子どもたちが居るわけですが、これが1学年2クラスになって、子どもの数が増えれば、先生の目が行き届

かなくなりますので、どのように悲鳴を上げればいいのかもわからない子どもは確実に居ると思います。私の実体験でも、温泉中学校から室蘭の高校に入学したわけですが、クラスの数も人数もそれまでと比較できないほど多くなり、なかなか馴染めない部分は確実にありました。やはり現在の登別中学校の子どもたちが大きなコミュニティに入っていくとなれば、苦勞するのは明らかだと思いますので、そのあたりのケアが大変重要になってくると思います。

○部会長 ありがとうございます。小規模だから悪い、大規模だから良いということではなくて、子どもたちにとってどうあるべきかを考えたいと思います。子どもから話を聞くと、部活動の選択肢は少ないし、限られた選択肢の中で選んだ部活も活動がままならない。ブラスバンドも10数人編制でやっているし、先生の指導もままならない。委員会活動も同じことの繰り返しだし、学校祭も体育祭も寂しい状況です。他校の友達から話を聞くと、学校祭も体育祭も羨ましいと言っています。一方で、やはり人数が少ないからこそケアされる部分もあるし、人数が多いと先生目からこぼれる部分は出てくるんだろうと思います。ただ、小規模校でもできることはやっているだろうし、統合で人数が増えることで問題があるのだとすれば、それを理由に統合に反対するのではなくて、しっかりとケアすればいいんだと思います。いまの環境ではどうしても実現できない部分がある、専門性だったり、部活動の問題だったり、競争性であったり、その部分をしっかりと確保していくこともまた重要だと思います。そういう意味で、委員がおっしゃっているような部分は、これまで十分に話して来たのかなと思っています。さきほどまちづくりの話の中で、人口増加策を議論していかなければという話がありましたが、子どもの数が減ることは何年も前からわかっていたはずで、じゃあその時に何もしていなかったかというところではなくて、行政も我々も一生懸命やって来たんだけど、なかなか定住者を呼び込めなかった。そういう意味では、今の子どもたちには申し訳ないと思うし、大人の責任だなと感じています。委員の言うように、だからといって統廃合するのかという気持ちもわかりますが、どこかで誰かが線引きしなければならないし、考えなければならないと思います。人口増加策といっても、仮に年収500万円で30人雇用しますっていったら、年

間1億5千万です。それを6学年考えたら9億円です。数の問題を解決するためには、企業が雇用を生み出せばいいわけですが、学校存続を可能にするほど人数を増やすのは簡単なことではないと思います。それよりも、目の前の問題として、子どもたちが生徒数の少なくなった学校で大変な思いをしているし、チャンスを失っている。これは保護者として肌で感じています。これを何とかしてやらなければならない。委員は議論の材料を増やすと言いましたが、具体的にどのような材料を増やせばいいのか。私は話を前に進めたいと思っています。私はサッカーの指導もやっていますので、保護者の方と話す機会も多いのですが、早く決めて欲しいということはよく言われます。もちろん、委員が言われたように、まちづくりの面で心配な点は多くあると思います。ただ、中学校が無くなったらここに家を建てる人が居なくなるのかと言えばそれは別だと思います。就職先や勤め先といった他の要素もありますし、幼稚園と小学校があれば、新たな定住者が居なくなることは無いのではないかという話もありました。

○委員 部会長のお話は、早く決めて次のステージの話をしていきたいということだと思いますが、私も、統合ということではなくて、小さいところが大きいところに飲み込まれるという話ではなくて、校区を見直して一緒にやっていくという話をしたいなと思いますし、この地区に住む子どもたちにどんな環境を用意していくのか、地域の結びつきでどう解決していくのかという話をしたいなと思います。

○部会長 言いたいことは同じです。子どもたちのことを考えると待ったなしの状態だと思いますので。

○委員 そのためにも統合という言葉は使わない方がいいと思います。

○部会長 それはそれぞれの委員の中で理解してもらえればと思うところもあります。今の話で十分思いは伝わったと思いますので。

○事務局 事務局の方で整理させていただくと、行政は統合という言葉を便宜上使ってし

まうんですけど、登別中学校と幌別中学校の校区が一つになった時に、どのような環境を作っていくのか、そうした話に進んだ方が良いんじゃないかというのが、部会長や委員の話だったと思います。具体的に言うと、校区がひとつになった時に、通学方法をどうするのか、あるいは、登別中学校は地域との繋がりが非常に強い学校ですので、ひとつの校区になった時に、この地域に住む子どもたちと地域との繋がりをどう補完していくのか、そうした環境整備の話に進んだ方が良いんじゃないかということだと思います。一方で、委員からは、そういった方向性で話す前に、さらに材料を集めて、もう少し時間をかけて方向性自体の話をした方がいいのではないかという意見がありました。次回、第6回目になりますけれども、部会長や委員が言うように、統合後の環境整備の話に進むのか、委員が言うように、もう少し時間をかけて、方向性自体の議論を続けるのか、どういたしますか？

○部会長 皆さんの意見をまとめると、広域で子どもたちのことを考えなければならないというのが基本的な方向性かなと思っていますが、皆さんが納得できるように、さらに材料を集めて議論することも必要かと思しますので、次回は引き続き方向性の議論を行うこととし、委員と事務局で相談していただいて、具体的にどのような材料で議論するのか、別途調整してもらえればと思います。

○事務局 次回、引き続き方向性を定めるための議論を続けるということになりましたので、委員と相談して、どのような材料で議論を進めるのか調整させていただきます。そこで、次回6回目の日程になりますけれども、次回は8月25日木曜日、時間は本日同様18時から、場所についても、本日同様婦人センターで開催する予定です。内容としましては、さきほど申し上げましたとおり、方向性を定めるための議論をもう少し続けるということで、内容の方を精査させていただきます。詳細については、あらためて事務局の方からご案内しますので、よろしくお願いいたします。

○部会長 それではこれで「登別中学校 学校適正配置に関する地区別検討委員会」の第

5回教育環境部会を終了します。